

令和5年度 第1回 練馬区青少年問題協議会 会議要録

日 時 令和5年7月26日(水)：午後2時30分～午後4時
会 場 練馬区立区民・産業プラザ 研修室1
出 席 者 委員36名(うち代理出席4名) 欠席委員8名
幹事3名 書記1名 事務局7名
公開の可否 可
傍 聴 者 0名

1 開会

2 委嘱状交付

新任委員(区職員を除く)に委嘱状を机上配布。

3 挨拶

(教育長)

皆さん、こんにちは。

本日は、お忙しい中、また時刻としても猛暑の中、第1回青少年問題協議会に御出席をいただきましてありがとうございます。

この協議会の会長は練馬区長でございますけれども、区長は本区の友好都市でありますオーストラリアのイプスウィッチ市に渡航しております。その関係で、私が代わりに、区を代表しまして御挨拶を申し上げる次第でございます。

皆様方には、日頃から子どもたちの、とりわけ青少年の健全育成に御尽力をいただいておりますことを深く感謝申し上げます。

この青少年問題協議会は、青少年の健全育成に様々な分野で携わっておられる方々にお集まりいただきまして、青少年に関わる諸問題について総合的な対処をするために、また、翌年に青少年育成活動方針というものを定めるのですけれども、それを定めるために皆様方から御意見を頂戴したり、様々な活動について御報告をいただいたりするためにお集まりいただいているものでございます。

ちなみに、青少年に関することだけではございませんが、練馬区の刑法犯の発生状況は約20年ほど前に1万3,638件ありましたが、それをピークにしまして減少いたしてきておりまして、昨年は2,919件と、20年前をピークとしますと約2割、21.4%まで減少してまいりました。

もとより、青少年だけが刑法犯ではありませんけれども、そういった意味でも皆様方の日頃の地道な活動、活躍がこのような形で数字として表れているものだと思っております。

練馬区の児童・青少年に関しては、とりわけ私どもが所管しておりますのは小中学生、それから、高等学校の生徒も対象としておりますが、学校の内外に関係なく、学校外の活動も含めて子どもたちのさらなる健全の育成のためにこの活動方針を策定していきたいと

考えております。引き続き、お力添えをいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(副会長)

こんにちは。昨年から引き続きまして、副会長を務めさせていただいております。

本日は第1回の青少年問題協議会ということでございますので、皆様からまた貴重な御意見を頂戴できればと思います。そして、私なりに、皆様の意見を集約できるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

また、何分不慣れな役目でございます。委員の皆様にも失礼な点もあるかと思いますが、何とぞ御容赦していただければ幸いです。

円滑な進行、そして意見の集約に努めてまいりますので、御協力のほど、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

4 委員の紹介

5 議題

(議長)

それでは、会議次第に沿って進めてまいります。

議題の審議に入りたいと思います。「令和6年度練馬区青少年育成活動方針(案)の策定について」、事務局から説明してください。

(事務局)

資料2、資料3、資料4により説明

(議長)

ただいま事務局から議題の趣旨説明とアンケートの結果について報告がありました。

こちらに対して、御意見等がございましたら挙手をいただきまして、発言の前にお名前をお願いいたします。

早速ですが、それでは、委員の皆様いかがでしょうか。

(委員)

例えば4番目、ごくごく当たり前のことで、通り一遍のことを言っているが、その中で説明にある、「家庭、学校、地域、関係機関が一体となって子どもを見守ることが大切です」。そのとおりだと思うのですが、それをやられていますか。

子どもたちは今どうなっているかという、塾とかスポーツクラブで色々やっています。周りとは遊ぶと「うるさいね、向こうで遊んでよ」と言われてしまいます。子どもたちのこ

とをみんなで声をかけるようなことがなされているかという、ほとんどないです。何とか委員とかいう学校パトロールとかというお話をしているときは、皆さんちゃんとやられています、そうでなければ声をかけません。

建前ではなくて実際面において子どもたちに危ないときは危ない、何か変だなというときは声をかけるということを標語ではなく実際にやっていくようなことを考えるべきではないでしょうか。建前ばかり言っていてもしようがないです。建前に対しては誰も反対することはない。それぞれ委員になっている方々は、あまりにも偉くなりすぎてしまって、実際自分がどういうことをやっているか、現場で自分たちの仲間がどういうことをやっているかを分かっておられない人が多いのではないですか。

(議長)

ありがとうございます。貴重な御意見ございました。

言葉だけではなくて実践していきたいと思っております。

他に御意見がございましたら挙手の上、お願いいたします。いかがでしょうか。

(委員)

資料2を拝見して、せっかく、すごくいいものを作っているなと感じている中で、よかったらプラスアルファでこういうことも書けたらいいのではないかと、少し意見させていただければと思います。

2ページのところに「子どもと話し合ってみましょう」という部分があります。

ここに書いてあることは、事実を答えるような感じがするので、子どもの気持ちまでを引き出せるような質問、気持ちがあってこそ行動に移ってくるので、事実や見えるところだけではなく、子どもの気持ちも引き出せるような質問を投げかけたら良いのではと思いました。

もう一つが、1ページ目の四つの目標で、この目標も本当にそのままだと思いますが、個人的にコーチングをやっているのですが、目標を立てる時は、わくわくするような気持ちが動かされるような目標を立てることがすごく大事だと思っています。この四つも、すごく大事なことでありますが、そこにプラスアルファで、どうしてこの目標が大事なのが書いてあると、とても親切になるのではないかと思います。

また、資料4のアンケート結果Q6で、活用したことがないということで、活用機会がなかったという人が90%おり、子どもだけではなくて、親の心の余裕もすごく大事なのではないかと。頭では分かっている、これを持っていても、忙しかったりとか、心の余裕がないと、ついしまったまま1年経ってしまうということもあるかと思うので、子どもの育成のためには親の心もすごく大事なかなと思っているので、そのケアにもぜひ意識を向けていただければなと思いました。

(議長)

貴重な御意見ありがとうございます。

ただいまの御意見で、何か参考になる御意見がございましたら挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。

(委員)

先ほどの委員がおっしゃっていた内容と附随して、資料2の、まず、活動方針の表紙で、新型コロナウイルスについてはある程度自治体としても収束というか、あまり表に立って何か伝えるようなことは少なくなってきたので、ここの文言は変わってくるかと思っています。

四つの目標の2番目について、私もねりま遊遊スクールでプログラミングイベントを開いております。せっかく子ども向けのイベントを開いているので、中学生や高校生が、小学生に教えるような、先生として参加させてあげたいと思ったことはありますが、お手伝い募集の方法や、社会参加に対して企業としてどう動いたらよいかなどが見受けられない現状になっています。子どもたちを社会参加させるために企業としてどうあるべきか、募集の方法、子どもたちへの還元など、練馬区としてもそういう参加を促すような制度みたいなのがあると、企業としても支援しやすくなると思います。目標の2番が抽象的な表現になっているので、分かりやすいものを策定していただけるとよろしいのかなと思います。

最後に、相談先の記載がある4ページ・5ページのところで、保護者向けのところと、子ども自身が自分のためにどう守っていくのかという両方の記載がありますが、子どもが見て自分で認知するような文章については、平仮名や振り仮名を添えるなどをした方がよいのかなと思いました。

(議長)

ありがとうございます。貴重な御意見でございました。

前半のところは、1ページの目標の2番の社会参加の機会に関することですかね。それから5ページ目で文言表記について、子どもたちが読みやすくした方がよいのでは、そんな御意見だと思いますがよろしかったでしょうか。

今の御意見と関連していることでも結構です。何か御意見等がございましたら、挙手の上、御意見いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

以前、私もこの資料を作っている会議、青少年対策連絡会に出ていましたが、年に4回から5回の会議の中で作り上げていくのですが、各地区から1名ずつ出てきて議論している状況です。

今、いろいろな言葉のことが出たのですが、その何回かの中で表現を一生懸命考えていますがとても難しいときもあります。もっとこんな有意義な言葉があるのではないかなと悩んでいることがあるので、青少年対策連絡会へ、メッセージとして送っていただけたら参考になるのかなと。結構苦心しています。

企業としてはこういうふうにしてほしいという御希望とか、ヒントとなればよいかと思

うのでアドバイスしていただけたらきっといいのではないかと思います。

(議長)

貴重な御意見でございました。

青少年対策委員会の印象だと思えますけれども、大変そうですね。ありがとうございます。

それでは、引き続きまして、まだ御発言いただいていない委員の方もいらっしゃいますので、こちらの青少年育成方針案につきまして御意見等がございましたら、挙手の上、お願いいたします。いかがでしょうか。

(委員)

私の発言は、的を外れているかもしれませんが、お許しいただきたいと思えます。

私も何年かここに携わっていますが、私は非常によくできていると思えます。しかし、よくできているけれども、非常に普遍的に、当たり障りないように書いてあると。もう少し、私は、焦点を絞って問題を掘り下げたらどうかと思えます。育成方針の2ページ目の四つの項目はどれも必要だと思う。それでも少ないと思う。

しかし、皆さんが比較的利用頻度が少ないということは、常識的なことは分かっているという受け取り方をしているのではないかなと思えます。

私は、この2番目の「青少年の社会参加の機会を増やそう」ということに、少し力入れていった方がいいのではないかと思います。

というのが、町会へお父さん、お母さんがまず入らないですよね。町会に入らないということは、近い将来、町会が消滅してしまう。ところが、町会がなければ、お祭りも何もイベントごととはできないのです。

コロナの3年半、何もできなかった。今、全国で祭りが復活して大騒ぎです。歴史的に継続して、そうやって長い間お祭りが続いてきているということは、学校がなくても、みんなお祭りが大切なことを認識しているということではないと私は思うのです。

お祭りのいいところは、いろいろな社会を含む多様な人間、老若男女が集まって楽しく過ごしたり色々な社会体験をする。

そういう社会体験を肌で感じてインプットしていくことが、想像力、クリエイティブな人間をつくる要素になるのではないかなと思うのです。人間はインプットしていないものはアウトプットできないですから。これから求められるものは、想像力のある人間だと企業は言っている。想像力がある人間というのはどういうのかというと、いろいろ体験をしていないとアウトプットできないと思う。

学校で習うことは結論があることで、それが全て、これからChatGPTに取って変わる制度があるのです。そうすると、それで質問すれば何でも答えてくれる。人間に求めるのは何か、クリエイティブ、想像力です。

そういう想像力というものは、どうしてできるかということ、若いうちに幼少期にいろいろな経験をし、その中から色々積み上げてあらゆることを想像していくと、こういうこと

につながるのではないかと私個人的に思っている。

そして、もう一つは、社会性を育むために、これは2番目のところに力を入れて、直したらどうかという提案です。

(議長)

ただいま、御提案がございましたが、それに関連することでも結構でございます。他の点でも、改善する点やお気づきの点がありましたら御意見を頂戴できればと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

この活動方針は、すごく良いものができたと、ずっと言っていますが、逆にマンネリ化したと私は感じています。

特に のところは、青少年の社会参加の機会について、青少年課としては、3ページに載っている青少年育成地区委員会や、青少年委員会のジュニアリーダーを通じて社会性を作りましょうというのを一番、訴えたいのではないかなと思います。3ページの形をそろそろ変えて、もっと と繋げるような形にしてほしいと思っています。

(議長)

大変貴重な御意見ですね。

デザインが長年続いている形だということだと思います。ありがとうございます。

それでは、御意見をまだいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

今回の活動方針を私も存じていなくすみません。

使い方が1ページ目にあるように、まず目標があり、「子どもと話し合ってみましょう！」とある。一番区民の方が活用するかなと思われるのが、3、4、5ページ目の、こういった活動場所があるのか、子育てなどの悩みについてどこに相談したらいいのかという情報で、これ自体は非常にまとまっているので、これがお手元があれば、区民の方は相談先などがすぐに分かると思います。どちらかというところ、活動方針の現状でのメインがこの3ページ目以降の情報の活用というところが大きいと思います。

ホームページを見ると、この資料がPDFで貼られているという状態ですが、スマホが普及しているので、情報がすぐに分かるようなホームページの見せ方などももう少し工夫があるといいかなと思っています。サイトとかでよくあるのが、例えば、4ページ目について相談内容をまずキーとして、それに関して、その中でどこに相談していいのかというのが分かるように、掲載上の工夫をもう少ししていただきますと、恐らく具体的な活用事例というところで、もう少し、こういった方針の良さというか、内容がうまく伝わるのではないかなと思っています。意見でございます。

内容自体は、こういった情報は大事なことですし、情報の見せ方や区民の方への周知と

いうところの工夫を、これは皆さんの意見も頂戴しながら、できれば見やすい形に提供いただけると、より良いなと思っています。

(議長)

ただいまの御意見は、体裁といいますが、テーマとその先の関係がもう少し明確に矢印みたいなものがあると、すごく視覚的には見やすいと思いますよね。

非常に貴重な御意見をありがとうございました。

(委員)

2のところを担っている、3ページの青少年育成地区委員会と青少年委員会に学校の関係などで出ささせていただいていますが、運営してくださっている地域の方々がキャンプ等をすごくよくやってくださっているなどありがたく思いました。ただ委員会も高齢化していて、これはいつまで続くのかということ懸念しています。世代交代というか、どこもうまくいっていないのではということを感じています。

この活動は、団塊の世代の方たちがすごく元気でよく考えて作ってきてくださって、それを次の世代にどう伝えていくかが本当に課題だと思います。私たちの世代は忙しすぎるというところがあって、本当に地域の目というのが足りなくなっていると感じています。

学校の役員もなかなか見つからない状況で、地域の大人たちの目でどうやって子どもたちを見守っていくかというのは、どこも課題になっているかと思うのですが、次の世代を育てていくという具体的な手段と方法、具体的なプログラムみたいなものを考えないと、この活動もあと数年後には成り立っていかないだろうと思います。次の世代にどう伝えていくか、バトンを渡せるかという仕組みをつくらないといけないのではないかなと思いました。

(議長)

大変深い問題でございます。

(委員)

資料4の活動方針アンケートの結果について、この内容についての分析がどうなのかなと思っています。

アンケートのQ1の所属のところに保護者というのがあるのですが、恐らく、このパンフレットは保護者の方に見ていただきたいというのが一番のところなのかなと思いますが、青少年育成地区委員の方が一番アンケート回答されているということだと思います。本当は、ここは保護者の回答が1番であって、どんどんよくなっていくものなのかなと思っています。

育成委員の方々は、PTAとかを経験されて、一生懸命、地域の活動をしていこうとい

うことでずっと活躍されているかと思うのですが、現役の保護者の方たちがどのように感じているかというのが一番気になるところです。なかなかこういうのを広げていこうと思っても、渡されてそのまま置いてしまうと思います。

なので、小学校、中学校のPTAの方や役員の方たちが、まず、アンケートに答えてもらい、そうすると関心を持っていただける。役員の方が知っているだけでも、困った保護者がいたときにこういうのがあるよと渡せるような環境になるのではないかと思うのです。

このアンケートを取ることはすごくいいことだと思っていて、現役世代の方にもっとパンフレットづくりとかそういうことに関心を持っていただく。アンケートの内容も、どこが面白かった、どこが面白くなかった、改善点はあるか、そういうところも突っ込めるようなぐらいに、アンケート回答をPTAの役員さんからまず始められてはいかがかなと思いました。

(議長)

ありがとうございました。

活動方針のアンケート結果について御意見を頂戴しましたが、事務局で何かありますか。

(事務局)

アンケートの質問や回答の促し方については、もっと工夫が必要だと思っていますので、いただいた御意見を参考に、来年度に生かしたいと思います。

(議長)

今の御意見に関連することがもしありましたら御意見を頂戴したいと思います、いかがでしょうか。

(委員)

私見になりますが、小学校のPTAと中学校のPTAによって活動内容、または親の考え方も少しずつ変わってきています。

多くの保護者の方たちがその日を暮らすのに精いっぱい、その日の自分たちの収入をつくるのに精いっぱい、PTAの仕事等は極力やりたくないというのが、今、正直増えている。各学校、特に中学校とかでも委員のなり手がなく、くじ引きによって決めるという学校が多いです。そのくじ引きも、くじを引かれたくないからPTAの会員になりたくないという話も出てきている状況になっています。

母親に今までPTAを任せきりにしていたが、実は子どもたちの教育にものすごく興味を持っているという父親がいます。ただ、サラリーマンというところがあり、なかなか昼間に活動するのが非常に難しい。先ほどアンケートの話がありましたが、そういうものを父親にやってもらうと、結構いろんな意見が出てくるだろうなと思います。

意外と父親は、自分たちの子どもを含めて、こんな形にしたいんだよという意見を持っている方がいます。そういうものを少しうまく活用できればと思います。

(議長)

貴重な御意見ありがとうございました。

(委員)

私も、育成という部分では、すごく多種多様にわたるので、非常に難しい問題であり、10人お子さんがいたら10人違う育ち方をしていって良いのではないかということを感じております。

街中を見ていると怒っている親御さんと怒られているお子さんが多いような気がしています。それがなぜかという、一つは型にはめ過ぎてしまっているような、こうしていけば勝てるみたいなことを知っている親が一生懸命子どもに教えているような部分もあると思うのです。

このアンケートを見て、一つは、文章が分かりにくい、一つは挨拶をするなど簡単なことから家庭は始まると思っていて、もっと具体的に書いていただけると良いのかなと思いました。

(議長)

御意見ありがとうございました。御発言されていない委員の皆様、よろしいでしょうか。

(委員)

今までの資料にはないのかもしれませんが、新聞記事で、今、全国の学校で不登校が24万7千人程ということみました。それが多いか少ないか、私は判断する基準を持っていませんけれども、不登校ということは、私は将来、大問題だと思うのですね。なぜ起きているか、どうしたら良いのかということについて、活動方針で共有したらどうかなという御提案です。

(議長)

ただいまの御提案を承りましたので、ここで受け取らせていただきたいと思います。他に御意見はございませんでしょうか。

(委員)

今回のこの資料なのですが、最後の4ページ、5ページ目、このような一覧が各家庭にあるということは、子どもに何か起きたり、トラブルったり、悩んだときには、使えるということで、私はいいのではないかなと思っています。

先ほどの御意見もありましたけれども、不登校やいろいろ御家庭の事情もあると思うので、こういう一覧があるというのは一つ良いと私もは思っています。

あと、3ページ目の青少年委員会の活動について少し幅を大きくしていただきたいなど

思います。青少年委員会でいうジュニアリーダー養成講習会は、地域の中心となる若者たちを育てています。担い手もなかなか難しい中ではありますが、65人全員で力を合わせて一人でも多くの地域に根差した中心的な人物になれる精鋭たちを育てています。もう少し紹介文を増やしてほしいという意見です。

(議長)

御要望として確かに承りました。それでは、他にいかがでしょうか。

(委員)

子どもたちと自然遊びを20年やってきましたが、その間、青少年育成地区委員会、青少年委員会、ほとんど連絡も何もありません。唯一の例外は、3年ほど前に川遊びに向けて見学させてくれないかと1回あったのですが、このときはコロナ禍のために活動を中止となりました。多くの人がそれぞれ活動をやっていますが、全部自分ところだけ一生懸命にやって、よそのところを見よう、そういう感覚が全くない。

青少年地区委員会とか青少年委員会が何をやっているのかよく分かりません。もっと普通の市民に分かるように活動をもっと顕在化させてください。

(議長)

活動の周知についての御意見だと思います。

(委員)

今までの皆さんのお話を伺っていて、改めてこの四つの目標を見ていますと、私は、ほとんど2と4は経験してこなかったと思っております。

2の中でいえば、地元のお祭りに行ったときに、焼きそばが食べたくて行ったとか、ピノゴ大会があるから行った、そういう記憶はありますが、楽しみにしていたとか、積極的に活動を行っていたという記憶はありません。

なくても子は育つなというところもあり、このような会があると、これをしていないと駄目なのではないかというふうに思ってしまう親もお子さんもいらっしゃるのではないかとこのところに懸念を感じました。もちろん、参加した方がいいのかもしれませんが、していないから駄目というような感覚で親がこれと向き合ってしまうとは、効果がなくなってしまいます。いろいろな活動に参加してみないと、好きか嫌いかも気づけないのでいろんなことを経験することはすごく大事だと思っております。

そういうチャンスはこれからも大事にしていきたいと思うので、もしかすると、このリーフレットは、この青少年育成地区委員会が何をやっているのか、参加するとどんな楽しいことがあるのかということにもっと特化してもいいのではないかと今までのお話を伺っていて思いました。

(議長)

貴重な御意見をありがとうございました。

(委員)

活動方針の認知度が進んでいないとか、どんな課題があるかということで一つ気づいたのですけれども、こちらの2ページ目のところで「子どもと話し合ってみましょう！」というページがあります。例えば夏休みの期間にお家で、親子で話し合う時間を設けるということができれば、こちらを活用することにつながると思うのですね。

なかなか難しいと思いますが、こちらのアンケートを見ますと、5割近くが小中学校の保護者に配布しておりますので、配付する際に一言、こういった内容を夏休みなどに活用していただけないかという文言を入れると、認知度の向上や活用される一因になるのではないかと思います。

(議長)

もっと活用率を上げるためにはという御意見だったと思います。

(委員)

学校で夏休みに入る少し前に配布され、表紙がとてもすてきだったのでじっくり読ませていただきました。夏休みをどうやって過ごそうかというのは、どこの家庭でも不安を抱えて夏休みに入るのですけれども、チェック項目も、子どもと一緒に見るというのは難しいところもあったが、夏休み前に子どもとの関係を考える良いきっかけになりました。

あと、夏休み期間の預け先も不安を抱えている保護者の方は多いと思いますが、子どもが迷子になったときや帰宅時間に帰ってこなかったときに、地域の方と連携が必要だなということをお子さんがある家庭は考えると思います。夏休み前の配付や活動方針の内容は、すごくためになりました。

(議長)

ありがとうございます。続いてお願いいたします。

(委員)

このパンフレットについてのお話でしたが、そもそも青少年問題協議会は青少年問題について協議する場ということで、せっかく今回の警察や関係者の方が直接いらっしゃるの、現状の練馬区の子どもの問題やこういった課題があるのかということについて現場の話を聞いてみたいところですが、いかがでしょうか。

(議長)

それでは、警察の方からよろしいでしょうか。

(警察署)

問題というと多種多様ですが、SNSを使ったものが特に多くなっています。練馬に限らず全国的にも多くなっていると思います。知らない人と連絡、安易にSNS通じて大人の人と知り合ってしまうというのが多く挙げられる。スマホやインターネットの使い方というのは、特に必要だと思うところがあります。

万引きもかなり多くなっているところがあります。そういった規範意識というのは、我々も学校でお話しさせていただいて、教養ということをさせていただいているが、今、そういった問題が顕著に挙がってきているということでもあります。

(議長)

ありがとうございました。

(委員)

ありがとうございます。

その中で、例えばどういった原因によって引き起こされているのか、例えば家庭の問題なのか、はたまた違う問題なのか。多種多様で、いろんなケースがあると思いますが、傾向があれば教えていただけますか。

(警察署)

一概には言えないとは思いますが。ただ、今は昔と違うところで、両親が共働きになり子どもが一人になる時間が増えているのも事実です。そんな中で、不安だからスマートフォンやタブレットを持たせるというのも低年齢化してきているところはあると思います。

また、学校のタブレットなど、インターネットと触れ合う機会というのは特に増えてくるというところで、我々より子どもの方が知識があるということも中にはあります。その中で、やってしまったりする。先ほどの万引きにしても、ふとタイミングが合わなくて、お父さん、お母さんがいない中でやってしまったとか、そういうのが感じられるところがございます。それだけでは当然ないとは思っておりますが。

(委員)

ありがとうございます。非常に勉強になりました。

このパンフレットは良いことが書いてあるなと感じながらも、我が事に捉えづらい良い表現だなという、それが悪い表現になっているのか何とも言えないのですけれども。このアンケートにも書いてありましたが、そもそも、ターゲットとして、どこに焦点を当てているのかが一概に少し分かりづらいところがあって、親向けであれば親向け、地域向けであれば地域向けに書くべきだと思います。ただ、配っている配付数でみると親向けが大半なので、そうすると表現の方法とかも「明るい家庭づくりを進めよう」というよりは、「子どもともっとコミュニケーションを取りましょう」とか、「子どもを外に遊びに連れて行きましょう」といった表現に変わってくるのかなと思っています。

改めて、このターゲットをどこに置いていくのかというのをしっかりと考えてもらった方がいいのかなと思います。また、現状として、SNSの使い方の課題が非常に大きいということで、SNSについて書いてはありますが、もっと優先順位が高くなると思っています。学校でもSNSのルールについてやっているとは思いますが、もし載せるのであれば、最後のページではなく前の方に載せて、特に今、重点課題であるのであれば、社会の状況に応じて、優先順位づけも変えていくということが必要だと思いました。

(議長)

御意見、ありがとうございました。それでは、他にいかがでしょうか。

(委員)

資料4のアンケート結果をみて、8万5千部配布したということで、練馬区の世帯数を考えると、ほぼ子どもを持っている全世帯に行き渡っていると思います。ただ、それが家庭にいったときに、これをどれだけ開いているのかなというのがまず疑問です。アンケート結果が、8万5千部配って60件、そのうち青少年委員の方が45件ということは、その他の一般の方が15件。どれだけ見ているのかという感じを受けます。

まず、もらったときに開かせる動機づけ、開いてみたいと思うような工夫があるといいかなと思います。

この絵が、大分評判がいいみたいですし、この絵が中にも出ていますが、「中にもいっぱいありますよ」みたいな、そういう案内があると開いてみる。開いてみると、そこで初めていろいろと書いてある。こういうのをまず開かせるのが一つ。

あとは、この1番から4番の目標。当然、良い題目が並んでおりますが、これも先ほどからお話が出ていますが、例えば2番の目標「青少年の社会参加の機会を増やそう」のところで、具体的活動を3ページの上の活動に矢印等につなげていく。3番の環境社会、環境づくりを進めようと思ったらこういうことがありますよというのが、ダイレクトにつながっていると分かりやすいかなと思います。

(議長)

御意見、頂戴いたしました。ありがとうございました。それでは、他に御意見はございますか。

ないようでしたら、事務局でまとめていただけますでしょうか。

(事務局)

委員の皆様には、日頃から青少年の健全な育成に御尽力いただいている立場から貴重な御意見を様々いただきまして、ありがとうございます。

いただいた御意見を基に、地域で青少年健全育成のため活動を行っています青少年育成地区委員の方や、管内の警察署少年第一係長、小中学校の生活指導主任などで構成されております青少年対策連絡会で検討いたします。

(議長)

それでは、本日の御意見を踏まえまして、令和6年度青少年育成活動方針の素案を青少年対策連絡会で作成していただきたいと思えます。

よろしければ、拍手で御承認いただけますでしょうか。

(拍手)

(議長)

ありがとうございます。

それでは、他に御質問がないようでしたら、次に移ります。

6 報告事項

(議長)

それでは、報告事項の(1)でございます。

「青少年の非行・被害者防止全国協調月間」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

資料5により説明

(議長)

ただいまの事務局からの報告事項でございます。

何か御質問はございますでしょうか。

特にないようでしたら、続きまして、(2)子ども防犯ハンドブックの寄付受領について、事務局で説明をお願いいたします。

(事務局)

資料の6、資料7により説明

(議長)

ただいまの報告事項(2)でございますけれども、委員の皆様から何か御質問等があればお願いいたします。いかがでしょうか。

(委員)

1～3年生用だと10ページ、4～6年生用だと4ページに記載の「大声を出してすぐ逃げる」というところで、いざとなったら大声は出ないものだと思っております、例えば何と言ったらいいのかを、特に1年生から3年生ぐらいだと、少し例として書いてある

といいのではと思いました。もちろん、防犯ブザーを持っていれば、それが代わりになってくれますが、大声を出すだけだと難しいのではないかと思ったので、もう少し改善していただければと思いました。

(議長)

事務局、いかがですか。

(事務局)

青少年育成活動方針をこれから御検討いただく青少年対策連絡会でも、内容について話し合いができればと考えてございます。

(議長)

その他、何かございますか。

ないようですので、以上で、本日予定していましたが、事務局から何かございますか。

(事務局)

次回の青少年問題協議会は、令和6年1月30日(火)午後2時から区役所本庁舎地下多目的会議室で開催の予定です。

12月に改めて開催通知をお送りいたします。

(議長)

それでは、委員の皆様、他に何かございますでしょうか。

特にないようですので、それでは、これをもちまして、令和5年度第1回練馬区青少年問題協議会を終了いたします。

本日は、ありがとうございました。